

# 「高志の国文学館周辺の文学散歩」

澤田隆彰

二〇一六年度の文学散歩として「高志の国文学館周辺の文学散歩」を実施しましたので、以下その概要を報告します。

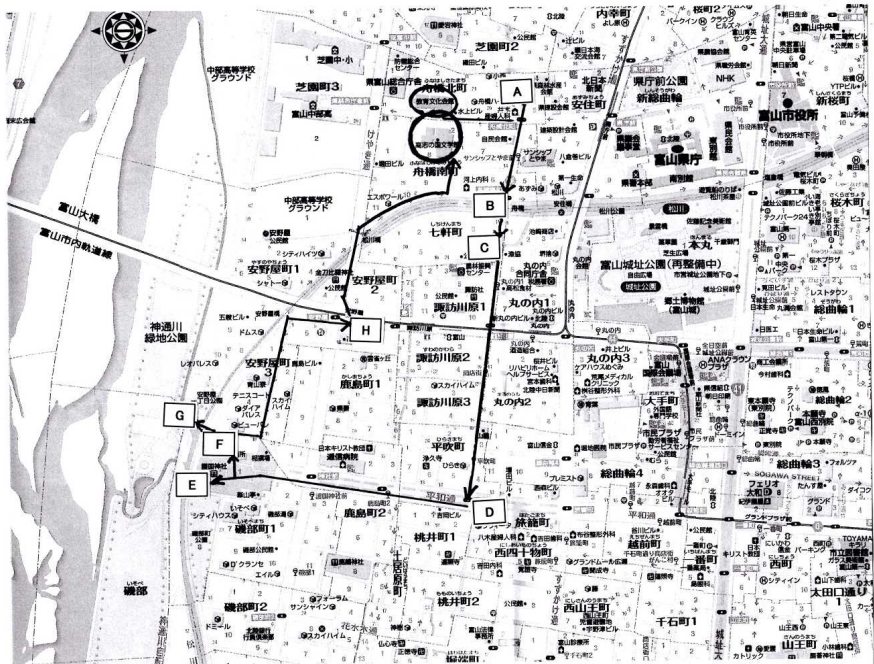
実施期日 二〇一六年一〇月二十二日（土）  
参加者 二十二名

まず、今回参加者が二十二名と多かったのは、澤田が講師を努める富山県生涯学習カレッジ自遊塾の講座「ふるさとの文学めぐり（入門編）Ⅴ」と共催のためであり、参加者内訳は富山文学の会会員八名、自遊塾塾生七名、一般参加七名（うち富山大学の小谷先生関係五名）でした。

午前一〇時、富山県教育文化会館三〇四号室に集合し、資料配布と簡単な説明、および今回の文学散歩途上（七軒町、丸の内周辺）には「鱒寿し」製造販売の店舗も多くあることから、文学散歩終了後三〇四号室にて「鱒寿し」の食べ比べを行うことも説明。参加者はこの食べ比べのほうにより関心があったかも。

文学散歩は、後記地図A（常夜燈）からH（中山輝旧宅）の順路で回るべく、午前一〇時三十分に出発しました。

各地点ゆかりの作家、文学作品等は、A B・船橋にまつわる話および小寺菊子『河原の対面』 C・名物は鱒寿し？ 鮎寿し？ D・小寺菊子『屋敷田圃』 E・護国神社の磯部富士、泉鏡花『蛇くひ』 F・翁久允 G・遠藤和子『佐々成政』 泉鏡花『黒百合』 C・中山輝旧宅および源氏鶏太 です。



## A 常夜燈（北側）・頼三樹三郎石碑

### ① 昔の神通川の流れ、川幅

富山在住の人なら、昔の神通川は大きく蛇行し高志の国文学館、県庁、市役所あたりを流れていて、現在の松川は旧神通川の一部であることはご存知かと思いますが、今でも旧神通川の川幅を実感できる場所があります。

それは、今も残る常夜燈です。北側（左岸）の常夜燈は富山県森林水産会館前のA地点に、南側（右岸）のそれはB地点（松川沿い）にあります。

この常夜燈は両方とも、ところどころ損傷しており、富山大空襲を受けたことが分かります。

### ② 頼三樹三郎石碑

北側常夜燈横に、頼三樹三郎の漢詩「神通川即吟」を刻んだ石碑があります。三樹三郎は頼山陽の三男で、嘉永元年（一八四八）越中を旅した時にこの七言絶句を作っています。

鉄鎖横江万丈長

鉄の鎖は大河に横たわり 万丈の長さだ

急流如矢響琅々

急流は矢のように早く 浪々と響き

五更鴉唱人蹤白

夜明けに鴉が啼き 人の足跡も白い

六十四梁舟板霜

六十四梁の舟板には 霜が降りている

なお、三樹三郎は幕末の尊王攘夷論者で、越中を訪れた十一年後、安政の大獄で捕らえられ斬首されました。安政六年（一八五九）一〇月のことで、三十四歳という若さでした。

ちなみに、県内では宇奈月の愛本橋の袂にも三樹三郎の

漢詩碑があります。

常夜燈（北側）



常夜燈（南側）



## B 常夜燈（南側）、船橋、および神通橋（木橋）

① 旧神通川により分断されていた町の南北を結んでいたのが神通川船橋で、江戸時代中期以降は六十四艘の舟を繋いでおり、その袂に常夜燈がありました。

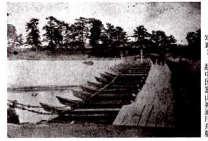
② 森林水産会館前に立っている北側の常夜燈は、もとは道を挟んでもう少し北寄りの場所にあり、南北筋違いに設置されていたといわれ、船橋の長さは約四三〇mもあったと伝えられています。

③ 神通川船橋は、江戸時代の紀行文『東遊記』にも「此

船橋と云ふ物、諸所にあれども、当所船橋日本第一也。」と記されており、さまざまな名所図絵や浮世絵版画に描かれ広く流布するようになり、日本一の船橋との評価が定着しました。



富山市第七博物館発行「特別展 街道を歩く 一近世富山町と北陸道」より



々とした静かな四邊の秋色を眺めてゐた。

とあります。

明治十二年（一八七九）、富山市旅籠町十二番地（D地点）で生まれた小寺菊子は、明治二十八年（一八九五）数え年十七で上京しますが、「船橋」と呼ばれていた橋はこ

④ 六十四艘の舟を繋いだ船橋も明治十五年に木橋に掛け替えられ、神通橋と称されました。

四

小寺菊子の自伝的小説『河原の對面』に  
 街端れの太川に長い長い橋が架つてゐた。昔は船をつないでその上に板を並べて、僅かに人を通してゐた、と云ふので、その橋は今でもやつぱり「船橋」と呼ばれてゐた。お町等はしばらくその橋の上に立つて、廣

の神通橋でした。

C 鱒の寿し？ 鮎の寿し？

① 富山市丸の内に、富山漁業共同組合（C地点）があります。

組合のパンフには「現在、事務所の置かれている所は、慶長年間から神通川の船橋の常夜燈の傍に位置し、藩政時代には鮭川役の番所が置かれた所と推測される。神通川漁民の歴史と伝統の中心地としての役割を四〇〇年に渡って受け持ってきた由緒ある場所である。」とあります。

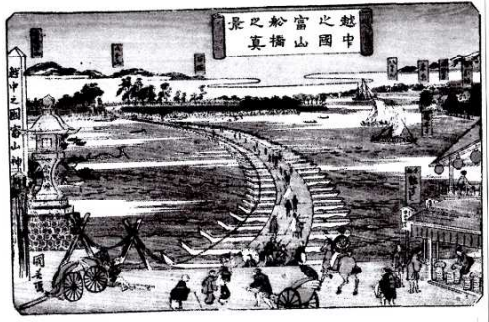
② 今では富山の名物というところ「鱒寿し」ですが、江戸時代は「鮎寿し」のようでした。次の図は「鮎寿し」が名物だったことを示しています。

右は十返舎十九の『金草鞋』ですが、第十八編（越中立山紀行）には舟橋がめづらしいとの狂歌とともに、「川ぎしのちや屋 あゆのすし めいぶつなり」として「名物の鮎のすし」とて買う人の おしかけて来る茶屋のにぎはひ」という狂歌があります。

左は明治初年頃の舟橋の浮世絵版画ですが、橋詰の商店は名物の「鮎すし」を商っている様子が描かれています。



十返舎一九『金草鞋』より



富山浮世絵版画「越中之国富山船橋之真景」（明治初年頃の神通川船橋）

### D 小寺菊子生家跡地

① 小寺菊子は、田村俊子、岡田八千代とともに「大正の三閩秀」と呼ばれ活躍していたもののいつしか埋もれ忘れられていました。この小寺菊子を掘り起こしたのは、富山大学教授だった金子幸代氏です。二〇一四年二月、金子幸代編集・解説「小寺菊子作品集」（桂書房）が刊行されています。

② 小寺菊子の『屋敷田圃』に「鏡花さんがずつと昔、私の家の斜向ふにあつた私の友達の家へ英語を教へて、然かられたとか・・・」とありますが、残念ながら泉鏡花が家庭教師に来ていた家は分かりませんでした。

### 小寺菊子生家跡付近



### 磯部富士



### E 磯部富士（護国神社内）

① 磯部富士を知らない方が以外に多いので翁久允宅へ行く前に護国神社に寄りました。

富山藩二代藩主前田正甫により磯部の地に琵琶湖、近江八景などを模した磯部遊園が造営されます。しかし正甫の死後遊園は荒廃し僅かに磯部富士と呼ばれる土盛り富士の跡を残すのみで、この磯部富士も昭和三十二年（一九五七）撤去されますが、記念に石を組んだ現在の「磯部富士」が造られました。

### F 翁久允宅と早百合観音祠堂

① 護国神社の駐車場を抜けて左折するとすぐに翁久允宅前です。  
 翁久允は一九〇七年渡米し邦字紙などに小説発表、一九二四年帰国後『週間朝日』編集長など務め一九三六年富山で郷土文化誌「高志人」を創刊しました。

111 創刊の號言葉

『高志人』の辭を書いた約三ヶ月の後に、高志人創刊號を世に出たのは、全く弘前氏の直傳聞接なる御孫助の賜物であります。この翁久允が、どう書つてゆくか、これは全く、豫測出来ないものであるが、擬心は天折しないやうに、長巻を保つやうに、さうして出世の目的と本願を果たすやうに、親心に似たい祈りをもつて、おくり出すこととあります。  
 史上に残された高志人十年か十五年か前のごとで、かかないが、何百年何千百年か測りきれない太古から、絶中そのものは存在してゐたし、私達の今日思ひやもない現象や生活がくり返されて来たこととさうし、今日の翁中入たるのれい、とて久ななる境界か能て、さういふ現象と動物世界の諸現象と異ならないのである。が、その必然進たる諸現象も、任心に任意深に觀察したら、ある一定の法則をもつて無始から永遠に動いてゐるのである。人間の作つた文字や言葉超越して、事實は事實のうちに存在し流轉してゆくのである。そして私達は今でも渾身の文字や言葉の體裁に依つて私達祖先の生活を理解して來たのである。が、その理解は余りに哲学的であり、斷片的であり、余りに個人論的であつた。  
 この翁久允が、これからどんな滋養分を吸収して、どんな發育を遂げてゆくか全く不明だが、この郷土の血と骨に關れる爲めに、訴められた、埋もれた過去の歴史の扉を開いた。そして語れ出た言葉に語りしめ、思はざりしものを思はしめる使命を果たすことが幾分でも出来た。その語れ出た言葉が違はれるのである。  
 翁中入はこの翁久允の誕生を祝願し、そして終末の輝きを齎して下さることを祈ります。  
 翁久允

② 翁久允は自宅敷地内に早百合観音祠堂を建立します。早百合観音祠堂の案内板には次のように書かれています。

「この祠堂は、早百合伝説の一本榎のそばに住んだ作家でジャーナリストであつた翁久允（一八八八—一九七三）の手により昭和二十九年（一九五四）建立されたものである。

早百合は五福村の農家の娘で、織田信長の武將佐々成政が富山に入城した折、召し出された娘のひとりという。成政は心根の優しい早百合を、ことのほか寵愛したので他の女性たちから嫉視されていた。

天正十二年（一五八四）成政が厳冬立山の

ざらざら越えを敢行、浜松城の徳川家康に豊臣秀吉との対決を促したが同意を得られず空しく帰城した。そこに早百合不義のうわさを聞き怒り狂つたという。彼女は無実無罪と訴えたが聞き入れられず、磯部堤の一本榎に吊るされ斬られた。いわれのない罪に彼女は一立山のざら峠に黒百合の花が咲くときあなたを滅ぼしましょう」という呪いの言葉を残して果てたという。黒百合伝説が今も語り伝えられている。

この伝説は、後に越中を支配した前田氏が治国の策として成政を暴君に仕立てるために作られたともいわれているが、江戸時代には限りなく哀れな郷土の物語として民衆の間にひろまつていった。今は、彼女が惨殺された一本榎のあつた場所に「磯部さくら」の碑が建てられ、富山市五福の長光寺には彼女の墓が残っているだけである。

この祠堂の建立は、早百合の成仏を願ひ、また昭和二十年（一九四五）八月の富山大空襲の際に通川原で無残な死を遂げた多くの人々の霊を供養するため発願されたものである。

平成十六年三月

富山市

G 磯部堤

① 翁久允宅横の磯部堤に登ると「磯部のさくら」石碑と「磯部の一本榎」案内板があります。案内板は昭和十五年設置で書いてある内容は「早百合観音祠堂」とほとんど変わっていません。

② 成政の早百合惨殺は、江戸時代の奇談集『三州奇談』や読本『繪本太閤記』に「柳の木の下で」として書かれています。

ますが、泉鏡花が『蛇くひ』（明治三十一年発表）で「磯部の一本榎」を取り上げ、翌年発表の『黒百合』で「榎の枝に懸けて愛妾早百合惨殺」と書いたことから、「磯部の一本榎の下で」となり、その後明治四十二年（一九〇九）刊行の富山市史も「神通河畔磯部堤一本榎ノ下ニ於テ鮎鱈斬トナシ、親族十余人ヲ殺ス」と記載したこと等もあり今に続く「磯部一本榎伝承」となったと思われる。



## H 中山輝旧宅

- ① 磯部堤を降りて左折し、市内電車が通る道路で右に曲がる。すぐ中山輝旧宅前です。参加者の荒川さんは小学生の時同級生に中山輝のお子さんが出たとのこと。
- ② 中山輝は、源氏鶏太（本名・田中富雄）の詩の師匠であり、富山商業学校に通っていた頃、田中富雄は学校の帰り中山宅に寄り道していたそうです。
- ③ 昨年の文学散歩で近藤周吾先生に「源氏慶太の通学路」として案内してもらったので、富山文学の会『群峰2』も参照して下さい。

### 鱒寿しの食べ比べ

- ① 文学散歩も無事終了し、十二時過ぎに富山県教育文化会館に到着。このあと皆さん期待の「鱒寿しの食べ比べ」です。

#### ② 当日配布の参考資料より。

- 一 「鱒寿し」について

鱒寿しとは 鱒（サクラマス）をもちいて発酵させずに酢で味付けした押し寿し（早ずし）の一種。

表記は必ずしも一定せず、ます寿し、ますの寿し、鱒の寿し、などある。

#### 二 鱒寿しの歴史

現在の鱒寿しの起源として語られているのは享保年間に富山藩第三代藩主・前田利興の家臣吉村新八が將軍徳川吉宗に献上し絶賛を受けたのが始まりとの逸話がある。

但し『越中資料』第2巻には、吉村新八が献上したのは「鮎寿司」でありその製法が現在の鱒寿しと同

じ「早ずし」であったと記載されている。  
 なお、平安時代中期の『延喜式』には鮭寿司が貢献物として登場するが、これは米飯を発酵させた「なれずし」とされる。

また、富山市にある鵜坂神社に神通川で採れた一番鱒を塩漬けにして春の祭礼に供えていたものが江戸時代に現在の早ずしの形態をとる鱒寿しに変化していったとの説もある。

### 三

「富山ます寿し協同組合」加盟店

青山総本舗 今井商店 川上鱒寿し店 元祖せきの屋 元祖関野屋 小林鱒寿し店 鱒寿し本舗高田屋 高芳 千歳 なかの屋 なみき鱒寿し店 前留 吉田屋 鱒寿し本舗

上記以外の鱒寿し店

富山市 味の笹義 大多屋 扇一 すし幸 寿司一 順風屋(魚廣) 寿々屋 昔亭 竹勘 紀雅 丸高寿し まつ川 源

富山市以外

(宇奈月) 有磯きときと庵 やま茂 ます寿司屋ヒ

口助

(黒部市) 植万 (魚津市) 魚づ鱒寿し店

(入善町) 味の匠味 (立山町) 大辻

(滑川市) とと屋 (射水市) いそまき 笹寿司

(射水市) 丸龍庵

(高岡市) ニューオータニ高岡フード 味の山正

(氷見市) 若廣

(小矢部市) おやべ 平ら寿司本舗

(\*) お問い合わせ：上記以外の鱒寿し店をご存知の方は澤田まで教えて下さい。

当日味比べした鱒寿しは、せきの屋、関野屋、高田屋、前留、まつ川、吉田屋 でした。

感想は各自それぞれということで・・・  
 なお、当日配布の資料はA3判十一枚、A4判三枚ですが、ここにはその一部しか掲載しておりません。  
 また、つたない澤田の説明に適宜補足説明をして頂いた野村様、ならびに参加者各位に感謝いたします。



いよいよ味比べです。

